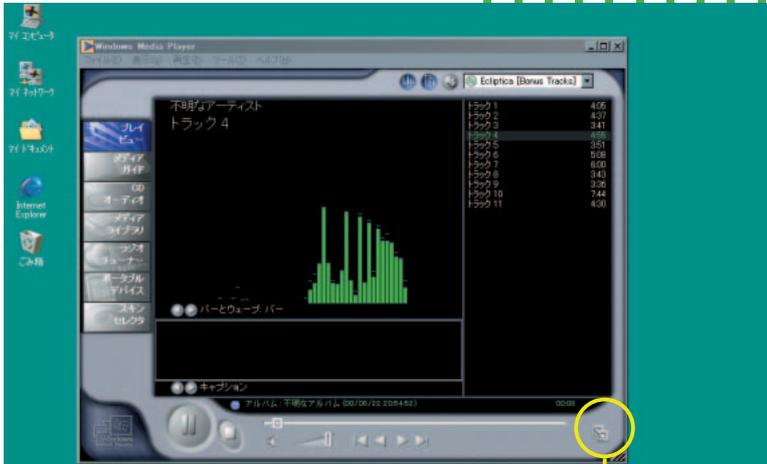


WMP7 フルモード



1つのウィンドウに機能を凝縮



起動してすぐ気付くのは、シンプルな前バージョンに比べて大きく変化したインターフェイスだ。ワンクリックで多くの機能にアクセスできるつくりになっている。新機能が用意されたぶんだけウィンドウサイズも大きくなった。再生に必要なボタンを持つメイン部分と画面片隅のウィンドウ部分の2つに分かれて表示されるコンパクトモードが用意されているので、状況に応じて切り替えながら使おう。



WMP6.4



WMP7 コンパクトモード

切り替えも自在

コンパクトモードからフルモードへ戻すには、画面の片隅の切り替えボタンを押すだけ。画面例のスキンは「Mini-player」。

メディアポータルへの変貌を完全分析 徹底解剖！

ウィンドウズ メディア プレイヤー

齋藤正穂 窓の杜 編集部

新OS「ウィンドウズMe」でも標準のメディアプレーヤーとして搭載される「ウィンドウズメディアプレーヤー(WMP)7」が正式に登場した。その一番の特徴は再生だけでなくコンテンツの購入からガイド機能に至るまでを包括する統合型のメディア再生ソフトとして大きな進化を遂げたことだ。とはいえこれだけ統合が進むとごちゃごちゃしてやや使いづらいという意見も出てくるはず。ここではWMP7の各機能を徹底的に分析していこう。

WMP7の入手方法 7月18日に各国語版がリリースされたWMP7は、現在以下のページからダウンロードできる(約10Mバイト)。10月号より本誌CD-ROMでも定番ソフトとして収録予定だ。

www.microsoft.com/windows/windowsmedia/

動画も管理できる再生リスト

視覚エフェクトの表示 再生リストの表示 シャッフル 再生リストの選択

再生/一時停止 (Ctrl + P)

停止 (Ctrl + S)

ミュート (F8)

ボリューム (F9:下げる / F10:上げる)

(左から) 前のトラック (Ctrl + B) 巻き戻し 早送り 次のトラック (Ctrl + F)

WMP 6.4 では1ファイルずつしか再生できなかったが、再生リストで複数のファイルを再生できるようになった。動画やサウンドのほか、音楽CDのトラックやストリーム番組も混在させて再生順を変えられる。また再生順をランダムにするシャッフル機能や、繰り返し再生する機能もある。

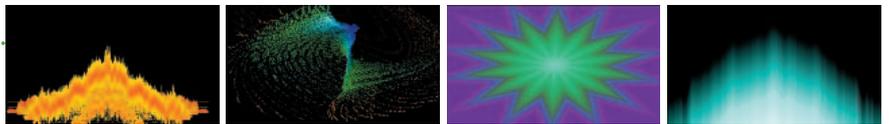


イコライザおよび設定の表示

グラフィックイコライザ型の音質設定や再生中の曲に関連する情報を表示する。上に挙げた3種のほか、「メディアの情報」、「キャプション」の5種類から切り替えられる。

視覚エフェクト

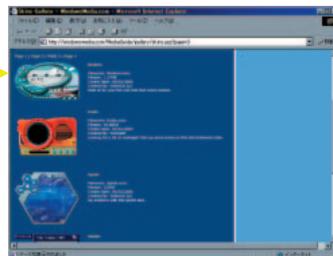
音楽に合わせてめまぐるしく動く視覚エフェクト機能も搭載され、スペクトラムアナライザ風のものから摩訶不思議な物体が乱舞するものまで多数用意されている。



気分を選んでダウンロードもOK

スキンセクタ

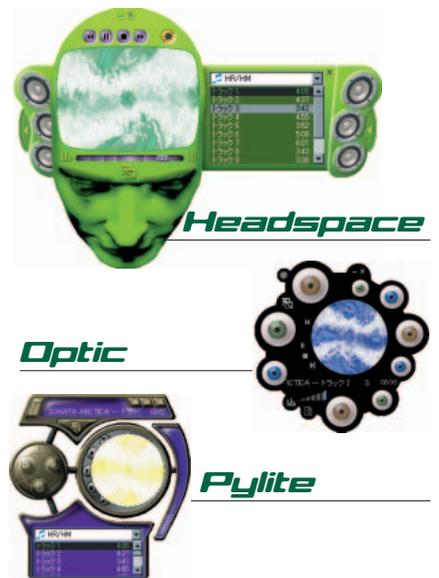
標準のウィンドウに飽き足らなくなったら、コンパクトモードのルック&フィールを自在に変更できるスキンを使おう。ユニークなものから表示サイズを小さくしたものなど多数のスキンを利用できる。マイクロソフトのサイトなどからも新しいスキンをダウンロードできる。



スキンのダウンロード

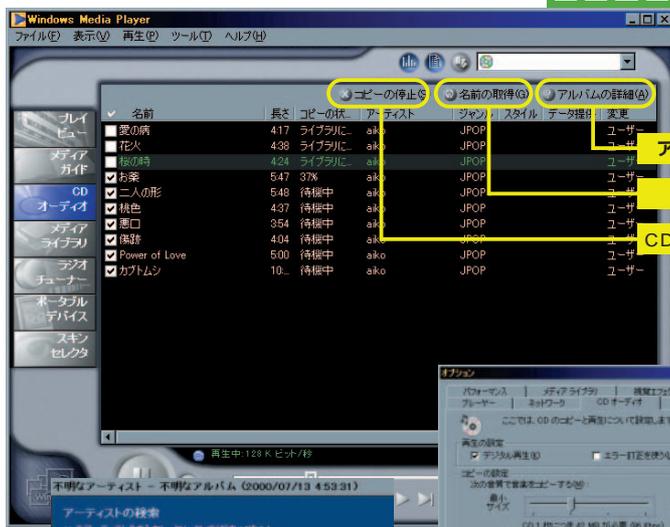
「スキンセクタ」タブ内のリスト以外のスキンは、タブ上部の「他のスキン」ボタンからスキンギャラリーにアクセスして探そう。

スキンの例





お気に入りのCDをまるごと録音



- アルバム情報を見る
- 曲名の取得
- CDコピーの開始/中止

音楽CDをハードディスクに圧縮してライブラリに保存するCDコピー機能を利用すると、一度再生した音楽CDをドライブに入れなくても音楽を聴けるようになる。CDコピーすれば再生リストを使って複数の音楽CDからお気に入りの曲だけを選んで再生できる。保存形式は同程度の音質ならMP3に比べて圧縮率に優れたウィンドウズメディアオーディオ(WMA)方式。音質をファイルサイズとのトレードオフで4段階から選べる。

録音オプション

「ツール」メニューから「オプション」を選択して録音ファイルの保存先や音質を設定できる。WMAではCDコピーを行ったPCでのみ再生を

録音ビットレートとコピーに必要な容量

低(32 kbps)	28 MB
中(64 kbps)	42 MB
高(96 kbps)	56 MB
最高(160 kbps)	69 MB

74分のCD全体をコピーした場合。

曲情報の入手

主要な音楽CDではAMG (All Music Guide) の提供するデータベースからインターネット経由で曲名やアーティスト、ジャンルなどの情報を取得し、録音ファイルのID3タグに記録する。

許可するDRM (著作権管理機能) が組み込まれている。「個人用の著作権管理を有効にする」をチェックするほかのPCにコピーしても再生できなくなる。

メディアファイルをばっちり整理

ここでは過去に再生した音声や動画ファイル、ストリームコンテンツ以外にも音楽CDや再生リストがツリーで表示される。ツリーはオーディオ、ビデオなどに分けられ、アーティストやジャンルごとに分類して一覧表示される。「コンピュータでメディアを検索」(F3キー)ではハードディスクやネットワークドライブから再生できるファイルをくまなく検索してメディアライブラリに追加できる。

WMP7で管理や再生のできるファイル

- CDオーディオ (.cda)
- Intel Video Technology (.ivf)
- マッキントッシュAIFFリソース (.aif, .aifc, .aiff)
- ウィンドウズメディア (.asf, .asx, .wax, .wma, .wmv, .wvx)
- ウィンドウズフォーマット (.avi, .wav)
- MPEG (.mpeg, .mpg, .m1v, .mp2, .mp3, .mpa, .mpe, .mpv2, .mp2v, .m3u, .pls)
- その他 (.mid, .midi, .rmi, .au, .snd)
- スキン (.wmz, .wms)



- 再生リストの新規作成
- 分類された音楽、ビデオファイルの一覧
- 再生リスト
- 「ラジオチューナー」でプリセットした放送局一覧

再生リスト編集

エクスプローラでのファイル操作のようにドラッグアンドドロップで再生リストに曲を追加して、再生リストを編集できる。

ライブラリで検索

メディアライブラリから曲名やアーティスト名をキーに検索した結果を再生リストとして出力する。先に「コンピュータでメディアを検索」を実行しておこう。

メディアガイド

注目コンテンツをチェック

ウェブ上で提供されているコンテンツ紹介サイト「Windowsmedia.com」を、WMP7の内部で表示できる。インターネットに接続していればブラウザを起動せずに直接メディアガイドを参照できるので、興味のあるコンテンツに直接アクセスできる。メディアガイドではストリーム放送などの最新トピックが紹介され、注目のコンテンツを見逃すことはない。メディアガイド内を検索して、好きなアーティストの最新情報に素早くアクセスすることもできる。

MSNサーチで検索



選択できる
各国(地域)版のメディアガイド

オーストラリア、ブラジル、ドイツ、フランス、香港、日本、韓国、ラテンアメリカ、シンガポール、スペイン、台湾、イギリス、アメリカ

ホームタブ以外も見逃すな

総合的にトピックを紹介するホームタブのほか、音楽、ラジオ、ビデオのそれぞれに特化したコンテンツを紹介するタブもあって、いつでも切り替えられる。

地域の選択

メディアガイドは国(地域)ごとに提供され、アメリカや台湾、ブラジルなどのメディアガイドにもアクセスできる。なじみのない国のコンテンツに思わぬ掘り出し物があるかも!

ラジオチューナー

世界中の放送局を一発検索



プリセット
リスト編集

「おすすめ」、「マイプリセット」以外にもプリセットリストを作成できる。

世界中のインターネットラジオから目的の局を選局して楽しめる。日本の局はもちろんのこと、外国の片田舎のマイナーな局のリスナーにもなれるのだ。局の場所や言語、コールサインなどから選局でき、よく聴く局は「マイプリセット」に追加しておけばいつでもすぐに選局できる。

ポータブルデバイス

お出かけ前でも らくらく転送



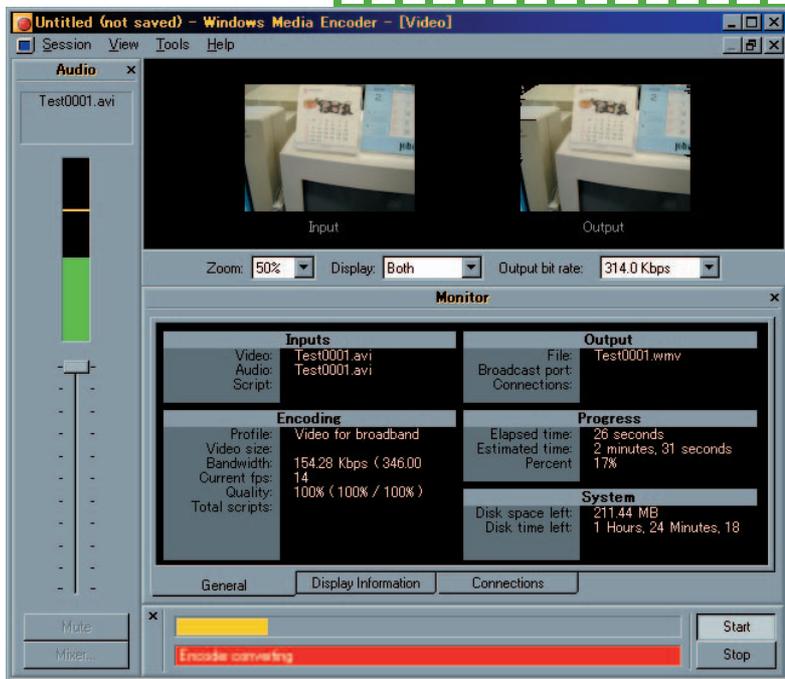
オプション設定

転送時のビットレート設定や対応機器の詳細はここでチェック。

WMP7では携帯プレーヤーにも対応している。PCに接続されたポータブルプレーヤーを自動的に判別し、左右のウィンドウの間で転送する曲や削除する曲をリストアップしてファイルを操作する。対応機種もウィンドウCE搭載機やLyla、MusicClipなど続々と登場している。



コンテンツ作りにはエンコーダーを使おう



WMP7はCDのリッピング機能以外にビデオやオーディオコンテンツを作成する機能を持っていない。今回ウィンドウズメディアテクノロジーを構築する製品群がバージョンアップされたなかでWMAやWMV（ウィンドウズメディアビデオ）の作成ツールとして「ウィンドウズメディアエンコーダ7」が無償配布されているので、ダウンロードして使うとよいだろう。ウィザードも準備されており、エンコードの対象になるファイルやオプションをステップごとに選んで操作できる。

最新機能であるスクリーンキャプチャー機能を使うと、画面上での動作を記録して保存したりライブで配信したりもできる。

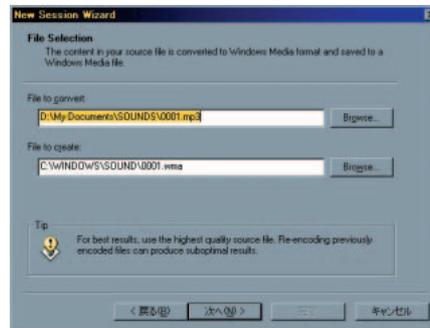
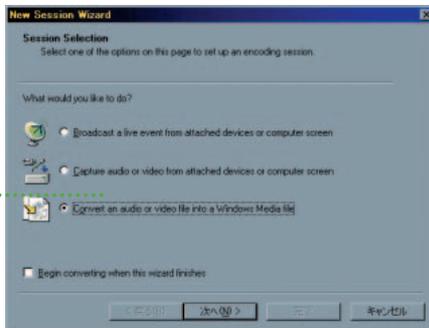
Windows Media Encoder 7

現在ベータ版（英語）がダウンロードできる

www.microsoft.com/windows/windowsmedia/

ウィザードを使う

初めのうちはウィザードを使って作成したほうがわかりやすい。外部から取り込んだ映像やスクリーンキャプチャーを動画にエンコードするほか、AVIやMOV、MP3などのファイルをウィンドウズメディアファイルに変換するモードを選ぶ。



スクリーンキャプチャーを動画で

画面上の操作を動画でキャプチャーできる。ソフトの操作方法をWMV形式で記録して他人に教えたり、ライブストリームでデモを行うなど用途はさまざまだ。

ウィンドウズメディアエンコーダで扱えるファイル

【入力形式】

- 動画・画像ファイル（.asf、.wmv、.avi、.mpg、.bmp）
- サウンドファイル（.wma、.mp3、.wav）
- 外部入力（映像、サウンド）
- スクリーンキャプチャー（PCの画面）

【出力形式】

- ウィンドウズメディアビデオ（.wmv）
- ウィンドウズメディアオーディオ（.wma）
- ライブストリーム（.asf）

WMP7は、マイクロソフトのデジタルメディア配信プラットフォームであるウィンドウズメディアテクノロジー(WMT)の再生用ツールとして位置づけられている。そのポイントと同社のメディア戦略を来日したウィル・プール氏に尋ねた。

Interview

米国マイクロソフト
デジタルメディア部門担当バイスプレジデント

ウィル・プール

Photo: Tohru Nakamura



Will Poole

サン・マイクロシステムズ上席マネージャーなどを経て、91年にeShop社を創立。96年、同社の買収によりマイクロソフトへ。大手コンテンツプロバイダーや音楽業界との戦略的提携を主導してきた。38歳。

音質の向上と統合度

WMTの今回のバージョンアップで注目してほしいのは音質の向上です。この夏、その再生機能を統合した新プロダクトとしてWMP7を正式にリリースします。WMP7はPC上の音楽、ストリーミング、そして外部のポータブルプレイヤーにもアクセスできる自在さを備えています。ユーザーが用途ごとにソフトを使い分けず、単一のソフトであらゆるメディアを楽しむというのがアピールしたい点の1つです。

今回日本を訪れたのは、消費者のニーズを理解し、パートナー企業が私たちの技術を製品にどう生かすかを探る目的があります。たとえばソニーとは大幅に改善されたオーディオ品質をMusicClipなどの製品にどう生かしていくかで意見を交わしました。

携帯プレイヤーは外出時でも高品質かつ音飛びなしで音楽を聴けることでニーズが高まっています。既存の技術では1時間分の音楽しか保存できなかったのを2時間分保存して同水準の品質で再生できるのはWMTの利点であると考えています。



著作権とコンテンツ供給

最新のWMTが著作権管理機能(DRM)を備えているとはいえ、著作権の問題は複雑です。消費者が私利利用のためにCDをコピーするという行為には制作者の権利をどう守るかという問題がつきまといまいます。

消費者が違法なものに手を染めず、購入したくなる質と量で安全にコンテンツを提供するほど市場が成熟するには、まだまだ時間がかかるでしょう。

しかし私たちは世界中のコンテンツパートナーに協力を求め、情報を提供しています。既存のオーディオやビデオ資産だけでなく、インターネットでのみ視聴できるサービスも必要です。たとえばスティングのニューシングルをネット上で購入したらライブバージョンもダウンロードできるというように。著作権管理が十分に圧縮技術も優れているウィンドウズメディアは、こういう事例で力を発揮することでしょう。

ブロードバンドへの対応

ゆうべはホテルの高速回線を使って映画をダウンロードしました。PCを通していくらかの料金を払ってライセンスを購入すれば、これを帰りの飛行機で視聴できます。ただダウンロードには広帯域の環境がなければならず、躊躇する人が大半です。

その1つの解決法は何度も言うように圧縮技術の向上です。音楽ならCD並み、映像ならVHS、願わくばDVDに迫る品質を可能な限り低い帯域幅で実現することが望まれます。

また、コンテンツプロバイダーやISPがリーズナブルにコンテンツを配信する環境を整えること、つまりサーバーのコスト効率を向上させることも重要です。ウィンドウズ2000以降、今回の製品群でもより洗練されたストリーミングが視聴できる環境を提供していく計画です。

米国ではxDSLやケーブルモデムなど、広帯域での接続環境を持つ世帯が2003年までに400万を超えると予測されています。日本の伸びは少し鈍いようですが、付加料金を払ってでも広帯域でコンテンツを楽しみたいというニーズは高まるでしょう。こうした予測があるからこそ、WMTはブロードバンドへの対応を強化しているのです。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp